

2021 年度
卒業論文・卒業制作集

2022 年 3 月

慶應義塾大学法学部政治学科

塩原良和研究会

指導教員より

「先生のマスク無しの顔、(対面で)初めて見ました」12月のはじめ、例年のように東門の階段で卒業アルバム用の記念撮影をしていたとき、そんな声が聞こえてきました。この一言に象徴された2年間でしたね。みなさんとこのゼミで出会ったのが2020年4月。しばらくはオンラインで、10月からようやく対面で授業を始めることができました。それから1年半、お互いにマスクをつけてずっと、共に学んできました。そのせいもあって、例年にも増してゼミ生の顔と名前がなかなか一致しなかったことをお詫びしなければいけません。

「対話」だの偉そうなことを言っていて、「飲みニケーション」とか、ゼミ合宿で「同じ釜の飯を食う」といったことがないと「教員-学生」の関係性をなかなか崩せない、自分の怠惰と不甲斐なさを反省しています。

とはいえ、それは僕の個人的な反省です。みなさんはこの2年間、ゼミの仲間たちと、そしてフィールドの現場で出会った人々と、素晴らしい関係性を築いてくれました。この卒業論文・卒業制作集を紐解いただけで、そのことは十分に伝わってきます。他人と「距離をとる」ことを余儀なくされたコロナ禍において、人と人(あるいは、人以外の何か)とが偶然に出会い、対話しながら場所を共有し、その場所をお互いによってより良いものにしていく営みが、社会にとってかけがえのないものであることが再認識されています。この営みを「共生」と呼ぶとすれば、みなさんの続けてきたフィールドワークはまさに共生の実践そのものであり、いま社会が必要としていることであり、ポストコロナの時代を切りひらいていく最先端の取り組みだったといえます。それを担ってくれたみなさんに、心から感謝しています。そして、この経験がみなさんの人生の中で活かされるときが来ることを、僕は確信しています。

昨年度に引き続き、本年度も卒業論文・3年次論文を執筆するゼミ生(卒業論文インテンシブコース)と、フィールドでの活動に重点的に取り組み、エスノグラフィを作成するゼミ生(フィールドワーク・インテンシブコース)に分かれて、それぞれ課題に取り組んでいただきました。さらに秋学期に結成された「めんそーれグループ」は、独自の課題を設定して共同で調査を行い、その成果を報告書にまとめてくださいました。この卒業論文・卒業制作集には、それらの成果が収録されています。どれも、読み応えのある力作ばかりです。学術論文、写真集、共同研究、エスノグラフィ、そして本集には収録されていませんが活動記録映像と、さまざまな表現モードがあるのも、このゼミらしくて良いと思います。することがたくさんあって大変だったと思いますが、よくぞ最後までやり遂げてくださいました。みなさんを尊敬し、誇りに思っています。

みなさんとの「飲みニケーション」は、同窓会やOB・OG会などで再会するときの楽しみに取っておきたいと思います。それまで、お互い健康でいましょう。2年間、本当にありがとうございました。さようなら。

2022年3月

慶應義塾大学法学部教授

塩原良和

目次

－卒業論文・卒業制作－

映画「落穂拾い」 ——質的インタビュー調査からの落穂拾いの分析 広瀬 奈美	1
多文化共生と地方創生の相互関係性 白石 千晶	44
足りない風景 三宅 里佳	84
在日中国人若者の被差別経験 『政治学研究』掲載予定 文 受彬	102

(卒業月・学籍番号順)

－共同研究報告書－

留学生と居場所 ——国際寮が担うコミュニティ形成の在り方 佐藤 美紗希・藤岡 陽大・渡辺 春乃 岡井 天海・神谷 莉乃・佐藤 凧沙・内藤 颯乃佳	131
---	-----

－エスノグラフィ－

「鶴見よる教室」における、さまざまなルーツを持つ生徒同士の交流方法について ——わたしたちゼミ生が、この空間で出来ることはなにか？ 齊藤 はるか	178
サポーターと子どもたちの関係と居場所 澁谷 駿介	185

よる教室における新たに出会った人々の共生について 森 風花	193
外国ルーツ高校生の学習モチベーションになるものは何か 反町 友哉	202
夜教室（ゼミ生・自分自身）に期待されている役割とは 若田部 佳佑	210
子どもたちが「居場所」と感じる理由 小林 優	218
コミュニケーションとしての「押し」語り 平岡 凌	232
大学生スタッフとのコミュニケーションによる生徒の学習充実 小林 夏穂	241
居場所における『あそび』の存在について 石川 愛海	249

(学籍番号順)

※本論文集掲載論文の引用・紹介について

本論文集に収録されている論稿の外部での引用・紹介を希望する場合は、著者本人と塩原に事前にご相談ください（塩原ゼミウェブサイト、および『政治学研究』にて公開・掲載されている論文は、自由に引用・紹介していただけます）。